



新聞に意見文が掲載される生徒が増えてきました

深堀中生の活躍

★長崎新聞 声～若い広場 〈3月5日(火)掲載〉

2年生 「大好きな2人の友達に感謝」

私には、大好きな友達が2人います。1人は、おしゃべりが大好きでいつも明るく元気な子、もう1人はお調子ものでクラスの中でいちばんうるさい子。そんな2人に私は挟まれています。私は、暗くて自己肯定感が低く、クラスの中でも人気のある2人が、なんで地味な私と仲良くしてくれるんだろう毎日思います。学校ではいつも3人でいて、登下校も一緒です。奇数はあまり好きではないのですが、この2人なら3人がいいと思ってしまいます。

1年生の頃はあまり仲良くありませんでした。というより、2人に対して苦手意識が強くて、あまり仲良くしたくないと思っていました。仲良くなったきっかけは、2年生の1学期。当時私は学校に行きたくないという毎日泣いていました。そんな時2人が私に、「大丈夫？」と声をかけてくれました。それまで私には頼る人がいなくて、誰にも相談できないままでした。そこから2人とお話す中で、2人がこんなに話しやすく面白い人なんだと思い、それから2人のことが大好きになりました。

2人とも私をよく思ってくれているのか、遊びにも誘われるようになり、とても仲良くなりました。今では学校に行きたくないということもなくなり、あの時2人が私に声をかけてくれたから今の私がいるんだと思うと、感謝の気持ちしかありません。

1年生 「バスケットが楽しい プロ目指す」

僕の将来の夢は、バスケットボール選手です。僕は中学校からバスケットを始めました。身長が高かったため、センターになりました。最初は、バスケットのルールもあまり分からず、センターの意味もまったく分かりませんでした。だけど、先生やチームメイトたちから優しく教えてもらいました。そのおかげでバスケットのルールや、センターの役目が分かりました。

初めての試合、僕はみんなのペースについていけませんでした。それでもチームメイトが優しく声をかけてくれて、自分のしたいプレーができました。点もたくさんきめることができました。その試合の後、先生から「初めてであんくらいできるなんて、センスあるよ」と言われて、その言葉がめちゃくちゃうれしかったです。バスケットの楽しさが分かって、その時プロになりたいと思いました。

僕には、とても相性のいいパートナーがいます。「ここでパスがくるな」「ここはあいつが攻めるな」とか、いろいろお互いの気持ちが分かります。対戦相手からしたら「こんなところでパス出すの」とびっくりするところでパスをします。でも、僕はそのパスを取ることができます。今までこのコンビを止めることができた人はいません。だから僕たちは最強のコンビです。そしてこの最強コンビでプロを目指します。